

27年2月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成27年 1月20日～ 27年2月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
入荷動向	国産材	10.0	0.0	10.0
	外材	△ 16.7	0.0	0.0
在庫動向	国産材	10.0	10.0	0.0
	外材	△ 16.7	0.0	0.0

・国産材ラミナのは入荷は、2月の増加、3月の横ばいが4月は再び増加に、外材は2月の減少から3月、4月は横ばいに。
・国産材ラミナの在庫は、2月、3月の増加が4月は横ばいに、外材は2月の減少が3月、4月は横ばいに。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/2月	3月	4月
国産材	10.0	0.0	0.0
欧州材	0.0	0.0	0.0
その他	—	—	—

・国産材ラミナ購入価格は、2月のやや強保合が、3月、4月は横ばいに。
・欧州材は3ヵ月連続して横ばいで推移。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・スギラミナの入荷はほぼ順調、北海道産カラマツラミナは天候の影響で遅れ気味。スギの在庫は増加、カラマツは前月の在庫増がありやや調整。
・構造材の製品市況が悪いため自ずと原料ラミナの荷動きも鈍くなる見込み、外材は円安を背景に横ばい状態が続く見込み。在庫は2月、3月の市況停滞を受けて、国産材も外材も増加する。

(ラミナ価格動向)

・スギは丸太価格上昇で5%程度UPした、カラマツは北海道産、岩手産とも横ばい推移。
・国産材ラミナは、B材、C材の価格がバイオマスの影響で下支えが出来、維持される。

27年2月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
生産動向	国産材	△ 20.0	0.0	20.0
	WW集成管柱	△ 25.0	0.0	0.0
	RW集成平角	△ 25.0	0.0	0.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	△ 30.0	0.0	20.0
	WW集成管柱	△ 25.0	0.0	0.0
	RW集成平角	△ 25.0	0.0	0.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材集成材の生産は、2月の減少が3月の横ばいを経て4月は増加に、WW集成管柱及びRW集成平角は2月の減少から3月、4月は横ばい、米マツ集成平角は3ヵ月連続して横ばい。
 ・国産材集成材の出荷は、2月の減少が3月の横ばいを経て4月は増加に、WW集成管柱及びRW集成平角は2月の減少から3月、4月は横ばい、米マツ集成平角は3ヵ月連続して横ばい。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/2月	3月	4月
スギ集成管柱	△ 66.7	△ 16.7	0.0
ヒノキ集成柱	0.0	△ 50.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	△ 50.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
RW集成平角	0.0	△ 25.0	△ 25.0
米マツ集成平角	△ 50.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	△ 50.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

・スギ集成管柱の価格は、2月、3月の弱含みないし弱保合から4月は横ばいに、ヒノキ集成柱及び集成土台は2月の横ばいが3月の弱含みを経て4月は横ばいに、カラマツ集成土台は3ヵ月連続して横ばい。
 ・WW集成管柱は3ヵ月連続して弱保合、RW集成平角は2月の横ばいが3月、4月は弱保合に。
 ・米マツ集成平角は2月の弱含みが3月、4月は横ばいに。
 ・米ヒバ土台角は2月の横ばいが、3月は弱含み、4月は横ばい、カラマツ集成平角は3ヵ月連続して横ばいに。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き)

・製品需要は減少するも、原材料は潤沢で生産は順調。引き続き受注量に応じた生産体制。仮需の反動及び実需が伴わず、1月下旬頃より荷動きの減速感が強く、出荷量は減少傾向、需要増加の要素も見当たらず、当面同様の動きで推移すると予想。

・2～3月住宅着工数は減少傾向。

・国産材集成材は、2月に入って一気に市況が止まった感がある。最低限の生産は行おうが若干減少。米ヒバ集成平角は市況の回復待たれる、生産もやや減少。国産材集成材の出荷は2月、3月が底、3月末は決算で必要分しか注文こない、全国的な動きは4月以降。米ヒバ集成土台は北海道が多いが、雪解けの3月中ごろから動きが戻ってくる。

(構造用集成材出荷価格動向)

・スギは、丸太価格高騰から原料コストは上昇するも、引き合いは減少傾向。需給バランスが整わず、値下がりは必至。特にハウスメーカー向けは大幅な値下げ要請により、採算性はさらに悪化。受注量確保か採算重視か、究極の選択を迫られる。カラマツは、競合製品（輸入材）の動向次第だが、為替円安でコストが上昇するも、需給バランスが整わず、価格に転嫁出来ていない。需要の見通しも悪く、当面は横ばいと見込む。

・ヒノキは、生産分をはかすには従来価格よりいくらか下げないと難しい、カラマツ注入やレッド注入など8万円前後の価格帯にも勝負をいぞんでいかなくては。米ヒバは、現状価格維持したいが3月は覚悟が必要。